

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援事業）

○事業所名	のぞみ園			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 20日		～	2025年 12月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	57	(回答者数)	18
○従業者評価実施期間	2025年 12月 20日		～	2025年 12月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数)	18
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 22日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	心身の発達支援に活用できる遊具を整備し、それだけでなく季節や地域性なども踏まえた子ども達の発達支援を行っている	・ダイナミックな活動（感触遊び等） ・将来を見据えた活動（調理体験・買い物活動・お買い物ごっこ等 イメージを育てる） ・栄養士による献立立案と完全給食の提供（食事支援） ・様々な活動に使用できる遊具等の整備 ・奄美の行事や自然に触れ合うことができる活動を年間を通して実施	・職員向け遊びや活動の研修会（活動の展開や年間計画に基づく活動作り）などを学ぶ機会を増やしていく ・新たに開発された発達支援機器などの情報も収集しながら活用できるツールは整備を行っていく
2	専門職や地域と連携した発達支援 （保護者向け、支援者向け研修の開催含む）	・臨床心理士と委託契約を結び、心理相談や発達検査を実施 ・行政の主催する親子教室や育児・発達クリニック等に職員を派遣し、子育て相談や療育支援へのつなぎに参画している ・のぞみ園単独の地域向け親子教室を開催し、地域の子育て支援に取り組んでいる ・公開療育の実践、関係機関との情報交換会の実施、長期休暇中の特別支援学校の先生方との事業所見学や情報交換会の開催等(リモートの活用も実施した)	・専門職種の雇用と新たな委託契約の検討 ・リモートを活用して関係機関と密に情報共有が行える機会作りを行っていくことと、同法人の専門職種と連携できる体制整備を行う ・地域支援者との顔の見える関係作り（リモート研修、自立支援協議会の部会参加などを通じた関係作り 等）
3	インクルージョンを視野に入れた発達支援	・一人ひとりの発達に合わせた日数の調整、また必要なご家庭には訪問支援や送迎の際の時間帯調整を行い少しずつ社会生活に出られるよう配慮している。また、必要に応じて地域支援に関する人たちとの連携を行い地域と共に支援を行うようにしている	・地域の保育所（園）幼稚園の子どもたちをご招待し、園にて一緒に遊んで交流することを企画する

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職の配置	人材不足と待遇面の課題	求人活動、雇用時の待遇見直し、必要に応じて外部関係機関と委託契約を結んで支援体制を整備していく
2	家庭の事情に応じた柔軟な受入れ体制の構築	・子どもの生活支援（お昼寝支援）や保護者のレスパイト支援、また、センターということもあり、利用人数が多いため途中から待機児童もでてきている	・生活リズムに課題のあるお子さまのお昼寝支援を始めたが、人数の関係もあり制限させていただいている。今後の状態を見てハード面の整備も検討していく。また、年度途中からの利用ご希望の際は待機にならないよう週に1回からの受け入れを開始する等の工夫をしていく
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		のぞみ園 児童発達支援事業				
		公表日 2026年 2月 4日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・数はいいですが経験年数の違いによる質の難しさがあり、不足と感じられやすいと思います	・研修の機会だけでなく、日々の振り返りの中で関わり方や利用者の気持ちを話し合い、職員の質が高められるよう環境の確保を行います。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・個別が必要な際は準備し環境を整えています	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			ミーティングや上長との面談にて意見集約を行いリーダーミーティング等にて話し合い業務改善につなげていく
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・今年度分は公表しています。次年度分は今作成中です	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・計画書を共有はしていますが確認するための工夫は必要かと思います	・支援計画会議、担当者会等を通して共有しており、個別ファイルも閲覧可能ではあるが意識して支援計画をみる機会を設けられるよう日々の振り返りに閲覧を取り入れていく
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・丁寧なアセスメントをしています但し標準的なツールを使っていません	のぞみ園独自のアセスメントを実施しているが、今後標準的なアセスメントツールの導入も検討していく
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・チームで話し合う時間も作っていきたい	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		・個別活動を頻繁に行うことはできていませんが、必要に応じて取り組んでいます	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・前日に打合せ、当日も軽く打合せはしており当日の役割については必要に応じて配置しています	・支援後の振り返りの時間に、次の日の支援内容や役割分担について確認する時間作りを確実にできるようにミーティング等で共有を図っていく
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・行っていますが、インクルージョンの視点を深める必要はあります。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○ ○		・自立支援協議会を通じて行っています	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○			
	31	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			・行事やリーダー活動などを通して、子ども達が交流できる機会を作っていく。また、年度末に保育所を招待して遊ぶ企画を計画中
	32	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	33	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			・ペアレントプログラムを実施していること、また、家族向け研修会を鹿児島大学准教授に依頼し実施している。また、就学前の保護者には就学後の保護者との交流を夏に設けている
保護者へ	34	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	35	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	36	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	37	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	38	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・親子行事の中で保護者同士の交流を設ける等していますが、きょうだい同士の交流は運動会にてきょうだい児の参加があり顔を合わせている程度になっています。	・きょうだい支援については、今後保護者会にも意見を聴きながら検討していく。

の 説 明 等	39	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	40	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	41	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	42	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	43	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			・総合避難訓練等の際は消防や通報の事もあるため近所にはご説明へ伺っている。次年度は非常食の試食会をご近所へもお声かけしていく
非 常 時 等 の 対 応	44	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	45	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	46	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	47	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	48	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	49	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	50	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	51	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	52	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			